



Hokkaido Lifelong Learning Association

# ほっかいどう 生涯学習 Lifelong Learning

ホームページアドレス <http://www.hsgk.jp>

新しい自分との

出会いや発見がきっとある



(写真提供 三原和廣氏)

(撮影地 札幌市西野)

## 目次

- |                      |   |                          |   |
|----------------------|---|--------------------------|---|
| ●これからの生涯学習を展望して…………… | 2 | ●平成26年度「かでの講座」上半期終了…………… | 5 |
| ●わがまちの生涯学習……………      | 3 | ●随想27……………               | 6 |
| ●私の生涯学習……………         | 4 |                          |   |

## 「これからの生涯学習を展望して」

北海道立生涯学習推進センター

所長 毛利 薫

昨年6月に閣議決定された国の第2期教育振興基本計画では、「一人一人が生涯にわたって能動的に学び続け、必要とする様々な力を養い、その成果を社会に生かしていくことが可能な生涯学習社会」を目指していく必要があるとし、知識を基盤とした「自立」「協働」「創造」の3つをキーワードとする生涯学習社会が実現することで、個々人の自己実現、社会の「担い手」の育成、一人一人の絆の確保などが図られ、少子高齢化やグローバル化など、我が国が直面する危機の回避につながるとしています。

また本年2月には、北海道生涯学習審議会が提言をまとめ、これからの北海道の生涯学習推進方策として、「北海道の今・未来を支える人づくり」「活力ある地域づくり」「人づくり・地域づくりを推進するために」の3つの方策を示しています。

具体的には、子どもたちが身に付けるべき「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」などの「生きる力」は、学校の経験ばかりではなく、地域の中で様々な体験をすることで、より一層育まれるものであり、学校・家庭・地域が連携・協力して、生涯学習を推進すること。環境教育や防災教育、食育、国際交流、超高齢化社会などの地域課題等に対応した取組の推進。「学習情報提供システムの構築」や「ライフステージに応じた学習機会の提供」など、生涯にわたり学ぶことができる環境の充実等が今後の方策として述べられています。

こうしたことを受け、北海道立生涯学習推進センターでは、まず「道民カレッジ」事業において、これまでは高齢者を含む成人の入学者が多いのですが、今年は小中学生への入学促進に力を入れています。子どもたちには北海道の歴史や文化、自然や環境などへの関心を深めるとともに、「道民カレッジ連携講座」を通して、多様な体験や活動を実践することにより、子どもたちの「自己肯定感」が高まり、子どもたちが地域社会や未来に夢や希望を持つと考えています。そのため、小中学生が参加できる連携講座の登録についても、関係機関・団体等をお願いしています。

なお、小中学生の称号授与のための単位取得方法や称号取得などについては、当センター運営協議会専門部会で議論していただいているところです。

また、様々な地域課題等に対応した取組の推進については、知事部局や高等教育機関等との連携を積極的に図り、連携講座の充実に努めています。ある管内では、教育局と振興局が手を結び、〇〇カレッジを展開する構想もあるようです。

さらに、道民カレッジ主催講座「ほっかいどう学」大学放送講座は、だれでもいつでもどこからでも気軽に受講ができるよう、これまでのテレビ放送から、インターネットでの動画配信に切り替える予定であり、(公財)北海道生涯学習協会と連携を図りながら、「道民カレッジ」事業を充実・発展させていきたいと考えています。

その他、本センターでは、道民の様々な学習活動を支援するため、インターネットで学習情報を提供する北海道の生涯学習情報のポータルサイトを運営しており、施設・機関や団体・サークルなどの生涯学習情報データベースの更新にも努めているところです。

現在、北海道生涯学習推進本部では、今後の生涯学習推進施策の指針となる「第3次北海道生涯学習基本構想(仮称)」について、北海道生涯学習審議会等のご意見も踏まえ、年度内の策定に向けて検討を進めていると伺っていますので、今後注目をしていきたいと思えます。



# わがまちの生涯学習～ともに学び合う子どもと大人

白老町教育委員会

教育長 古 俣 博 之

白老町は、胆振管内のほぼ中央に位置し、町の面積の約75%を森林が占め豊富な自然が織りなす四季折々の様々な表情を楽しむことができます。基幹産業は工業を中心に一次から三次産業までバランスよく構成されています。

また、2020年に「民族共生の象徴となる空間」となる整備事業として、アイヌ民族の歴史と文化をテーマにした国立の博物館が白老ポロト湖畔に開設決定されました。これにより、アイヌ文化の発信拠点としてユネスコ無形文化遺産に登録された舞踊などが白老から世界へアイヌ文化を発信する機運が高まっています。

本町では、学校・家庭・地域・関係機関等がともに連携し、それぞれの持つ教育力を融合しながら、将来を担う子どもたちの豊かな成長と、町民一人ひとりが生きがいを実感できるよう様々な事業を展開しております。

## 1. ふれあい地域塾

平成24年度より取り組んでいるふれあい地域塾は、教育の中核となる学校を軸に、保護者や地域の方が意識的に学校教育に関わることにより、学校・家庭・地域の絆が一層強められるとともに信頼関係をさらに深め、「地域の子どもは地域で育てる」という地域一体型の教育環境のもとに子どもに生きる力を育むことをねらいとしています。夏休み(3日間)・冬休み(2日間)の休業期間を利用し、地域ボランティア、学校の先生などの協力を得ながら学びの時間、英会話、工作・手芸体験、軽スポーツ、自然観察など様々な体験活動を行っています。子どもたちは、地域の大人と交わりながら、学習や様々な体験活動を通して人間関係を学び、地域への愛着を深め、生き方の視野をひろげています。また、参加した大人にとっても地域の子どもを学校とともに育てていくという意識向上に繋がっています。今後も工夫改善を図りながら豊かな地域コミュニティの形成と子どもに生きる力を育む活動として深化させていきたいものです。



ちょことバス遠足

## 2. 「しらおい子ども憲章～ウレシパ(育ち合う)」の制定(平成26年3月)

次代を担う子どもたちが未来に向けて夢や希望を持ち、明るく元気に成長するため、子どもはどのように自ら考え主体的に行動し、大人はどのように子どもを慈しみ、支えていくのか。子ども・保護者・教員アンケートや子ども未来会議、次世代育成支援対策地域協議会等での論議を踏まえ、子ども・大人パブリックコメントを行い、町議会での審議を経て、子どもと大人がそれぞれの役割と責任を自覚し、ともに育ち合う協働型の、「しらおい子ども憲章～ウレシパ(育ち合う)」を制定しました。本憲章は、①人権・命②感謝・思いやり③責任・行動④夢・希望⑤地域貢献⑥町の歴史・文化の6項目に視点を当てて制定するとともに、本憲章行動計画に基づき施策を推進しています。今年度は大人への重点的な啓蒙活動をはじめ、子どもたちの意見を反映した「子ども夢予算づくり」、子どもたちの夢や希望を実現するために必要な力や方策を子どもたち自身で考え、提起し、大人から意見をもらう「しらおい子ども未来会議」等を実施し、基本理念である子どもと大人は、ともに信頼し合いやさしい町をつくることに向けて取り組んでいます。

今後とも「豊かな学びで社会を生き抜く力を育むしらおい教育の推進～自立・共生・創造の学びの創出～」のスローガンのもと、子どもも大人も、すべての町民が、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができる生涯学習の基盤を整備し、共に心をつなぎあい、共に生きる喜びと信頼を大切にした人生を創り出すために自らを高め新たな価値観を追求する生涯学習を推進していきたいと思う日々です。

# 私の生涯学習

道南圏ボランティアの会 田仲 可昌

## 1. 道民カレッジと森誘クラブ

平成18年6月に、長年住み慣れたつくば市を後にして、ここ道南の大沼湖畔に移り住んだ。こちらに来た当時、驚いたのは、自分の体力のなさである。1年ほど経った頃、函館市立図書館で「道民カレッジ」の冊子を目にした。初めて聞く、クールな響きを持った名称であった。さっそく、道南で開催される講座を調べると、函館山をはじめとする道南の山の登山などの企画があり、問合せ先の「森誘クラブ」に連絡し、随時参加しはじめた。そのうち、クラブの会長石岡六美氏から、「森誘クラブ」に入って道民カレッジに参加するようにとのお誘いを受け、渡りに船と妻と一緒に入会して、今日に至っている。入会してほぼ8年になるが、妻ともども「森誘クラブ」を介して、道南の自然、文化、歴史を学び楽しんでいる。また、気にしていた私の体力であるが、いろいろと精進の甲斐もあり、駒ヶ岳の麓にある我が家から駒ヶ岳の馬の背まで、さほどの息切れもなく登れるようになった。まさに、「道民カレッジ」を介した「森誘クラブ」のお蔭である。「道民カレッジ」は北海道教育委員会が主催する事業を、公益財団法人「北海道生涯学習協会」が受託して行っているものであるが、実際の行事は、講座を主催している方々であり、その方々への感謝の念でいっぱいである。

## 2. 生涯学習と地域の教育

ところで、国力の基盤は教育である。そして教育は、学校、家庭、地域の三者が連携してはじめて実を結ぶものである。しかし、昨今、教育の場としての地域の機能が低下しているのが実情である。この「地域の機能」の活性化を、道民カレッジ受講生の「生涯学習」の一環としてとらえることが出来ないものであろうか。こんなことを考えていたら、文部科学大臣賞を受賞したという見事な実践例が、「ほっかいどう生涯学習」会報100号に「わがまちの生涯学習」として、利尻富士町教育長の石川武弘氏によって紹介されていた。「子どもたちと地域の大人が学びあい、ふれあう機会をもつこと」をさらに推進したいという。文科省の生涯学習政策局も「絆づくりと活力あるコミュニティの形成」プログラムに力を注いでいる。あとは、首長や教育長、地域の「生涯学習」受講希望者（さらには、住民）の「やる気」である。ただ、いろいろな事業は、参加したくなるようなインセンティブを与えないと成果が上がらず大きな流れになりにくい。この面の工夫やしかけが大切であろう。このような事業を通して、教育の場としての地域の機能が向上し、子供たちの学習能力が向上するとともに、より良い市民になる方向付けが出来たら素晴らしいことである。

## 3. 出会いと出会いの場

私は常日頃、人生を左右するのは「出会い」であると思っている。良い出会いがあれば、その人の人生はより良いものになる。ある人との出会いで、新しい見方や生き方を知り、あるいは、新しい問題に気づき、その後の生き方が大きく変わる。「道民カレッジ」をはじめとして、生涯学習にかかわるいろいろな企画に参加して、これまでとは違った、新しい「出会い」を得ることで、これからの日々がより充実したものになるのではないだろうか。

## 平成26年度「ほっかいどう学」かでの講座 上半期終了

北海道生涯学習協会が主催している「かでの講座」は、かでの2・7（札幌市中央区）を会場として、道民の学習ニーズや今日的な課題に焦点を当て、各分野から著名な講師をお迎えして開講しています。

今年度は昨年度より200円値下げになり、ワンコイン（500円）で受講できるようになったこともあり、事前申込者だけで定員になってしまうなど、盛況のうちに開講されています。

上半期は、卓上四季を担当していた講師による新聞コラム論や、実際のエンディングノートを使いながら展開された「終活」についての講演など、興味深い講座が多くありました。

受講生からも、「目から鱗！のお話に俄然身を乗り出し、色々な気付きがありました。」「考えることの素晴らしさを知りました。」等のご意見が寄せられています。

下半期は下記のとおり5講座開講されますので、是非かでの講座に足をお運びください。お待ちしております。

### 【今後のかでの講座予定】

日 時	講演テーマ	講 師
10月9日（木）	カホンで楽しむドラムのリズム ～世界のリズムにのせて～	ドラム・打楽器奏者 大山 賢司 氏
11月27日（木）	知られざる北の国境 (定員に達したため事前受付終了)	北海道新聞社編集委員 相原 秀起 氏
12月15日（月）	心臓病ってこわくないの？ ～三浦雄一郎氏エベレスト登頂を支えた経験から～ (定員に達したため事前受付終了)	心臓血管センター北海道大野病院、国際山岳医、 北海道警察山岳遭難救助アドバイザー 大城 和恵 氏
1月20日（火）	北海道の自然エネルギーの可能性と実践	北海道グリーンファンド事務局次長 小林 ユミ 氏
2月12日（木）	病院に笑顔を咲かせる道化師 ～病院訪問活動を通して～	日本ホスピタルクラウン協会北海道支部事務局 太田 恵美 氏



▲かでの講座風景



▲講座終了後、講師を交えて懇談する様子

## 生きがいつくり生涯学習促進事業

「生きることは学ぶこと」の視点から、これまでも道民の方々に広く学習の機会を提供してきている本事業を今年度は7会場で講演や実技指導などを開催します。

この事業は、道民カレッジ連携講座に指定されています。

開催日	市町村名	主 な 内 容
9月19日	紋別市	講演・学習発表「高齢者教室交流の集い」
10月18日	豊富町	講演・フィールドワーク「自然観察の方法」
10月21日	釧路町	講演・実習「釧路湿原の生き物を表現したペーパークラフト作り」
10月27日	根室市	講演・実技「北海道歴史クイズ」
11月21日	泊 村	講演・交流「ワザの伝承！遊びの伝承！」
12月18日	安平町	講演・演習「終活ノートを使って自分史を作る」

\*残る1会場は、現在、石狩管内で企画・立案中です。



随想27

### つれづれなるままに

「つれづれなるままに、日ぐらし硯に向かひて。心にうつりゆくよしなしごとをそこはかとなく書き付くれば、あやしうこそ物狂ほしけれ」

ご存じ兼好法師の徒然草の出だしである。吉田兼好について少し調べたいと思ってみたことがある。本名は卜部兼好で、弘安6年(1283)?~文和元年(1352)?の鎌倉末期~南北朝時代を生きただけの人である。官人・遁世者・歌人・随筆家ともいわれる。後二条天皇の警護職である左兵衛佐(さひょうのすけ)についていたが1308年の天皇の死後、突然に出家し、兼好法師を名乗っている。25歳ほどの頃のことである。故に吉田兼好より兼好法師のほうが正しい呼び方ともいわれる。

今は便利な世の中で、インターネットですぐに検索できる。そこで、徒然草の中からお酒にからむ随想を検索してみた。第百七十五段にそれが登場している。

「世には心得ぬ事多きなり。…酒をすゝめて、強ひ飲ませたるを興とする事、いかなる故とも心得ず。飲む人の顔、いと堪へ難げに眉をひそめ、…遁げむとするを、捕へて、引き留めて、すゝるに飲ませつれば、うるはしき人も、忽ちに狂人となりてをこがましく、息災なる人も…前後も知ら

ず倒れふす」~酒呑みの酔態を指摘している。

「百薬の長とはいへど、萬の病は酒よりこそ起れ。憂へを忘るといへど、酔ひたる人ぞ、過ぎにし憂さをも思ひ出でて泣くめる。後の世は、人の知恵を失ひ、善根を焼く事火の如くして、悪を増し、萬の戒を破りて、地獄に墮つべし」~(佛の説き給う)楽しい酒席にしなければならぬことを指摘しているのか。

「かく疎ましと思ふものなれど、おのづから捨て難き折もあるべし。月の夜、雪の朝、花のもとにても、心のどかに物語して、杯いだしたる、萬の興を添ふるわざなり」「上戸はをかしく罪許さるゝものなり」~きちんとした酒飲みは物事を一つの見方にだけ決めつけず複眼的なものの見かた、柔軟な考え方をもつことを論じているらしい。

このような兼好法師の一面を拾い出すことができたが、現在にも通じる名言を残しているのである。「命長ければ辱(はじ)多し。長くとも四十(よそじ)に足らぬほどにて死なんこそめやすかるべけれ」と言っていた法師も70歳ちかくまで生きた。おむね今の私の年齢である。暑い夏の夜に酒を飲みつつ、つれづれなるままに綴ってみた次第である。

(公財) 北海道生涯学習協会  
会長 宇田川 洋

### 新入会員紹介(敬称略)

次の方が新たに賛助会員になられました。  
今後ともよろしく願いいたします。

#### 個人会員

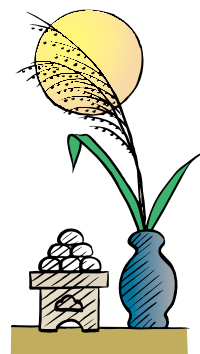
・斎藤 康博

### 事務局からのお知らせ

#### ●会費納入のお願い

今年度も会員の皆様のご支援・ご協力により各事業を実施しております。

つきましては、今年度の会費が未納の方は早めの納入についてよろしくお願い申し上げます。



### 編集後記

街路樹も色づきはじめ、山々も美しい紅葉を迎える季節となりました。

この度も、ご執筆いただいた方々をはじめ、いつも表紙の写真をご提供いただいております三原様、丁寧な仕上がりで納品していただく北海道リハビリ様など、多くの人々の係わりの中で、この会報は毎号生まれております。

このように携わった仕事が「形」となって将来にわたって残っていくことは、仕事の中でも大変に楽しい営みであると思います。

生涯学習も学んだことが、様々な「形」となって残っていくことは、有意義なことではないでしょうか。道民カレッジの称号取得、「ほっかいどう学」大学インターネット講座のレポート、各団体等の研究発表・実践発表とその記録等々、学びの秋を迎え生涯学習は様々な学習スタイルがあつていいと思いますが、「形」に残る学びも少し意識してみたいかでしょうか。

今年度も折り返しを過ぎ、皆様のお役に立てる協会として職員一同努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。